



碧南ロータリークラブ週報

第2958回例会 令和2年10月14日(水)

- 会長 岡本 明弘
- 幹事 鈴木 泰博
- 会場監督(SAA) 服部 弘史

2020-2021 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100



ロータリーは機会の扉を開く

- 会報委員 林 俊行・石川鋼勇・牧野勝俊

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

碧南市総務部経営企画課 課長 生田和重様

会 長 挨 拶

失礼致します。先週は最高気温でも 16 度の日があり、今週は 28 度に逆戻りという形で、会員の皆様には体調管理に十分にお気を付けいただきますよう、よろしくお願い致します。

本日は最初に 1 つ報告をさせていただきます。先週の 10 月 9 日 (金) に第 2760 地区の危機管理セミナーが開催されました。

テーマは「安全・安心な奉仕活動を目指して」ということで、ロータリーが青少年奉仕活動に対する内容としては良かったなと思っております。参加者は約 100 名で、時間は約 110 分でした。例年と違うのは Zoom での参加でしたので、現地に行かなくて済むということでした。実際に参加してみますと、普通のセミナーよりも講師と聴講者が 1 対 1 というような感じで、内容の理解は高まるように思いました。ただ、ロータリーの人と人との繋がりに関しては課題が残っているなというふうに思います。個人的にはその日が台風の影響で大雨でしたので、名古屋まで行かなくても参加できたのは、セミナーの開催方法の 1 つとして良い試みだったなと思います。

さて、本日の 1 枚の写真は「家族会」です。大変古い写真を持ち出してきました。ロータリーの基盤は親睦ということで、特に碧南 RC は親睦を大事にして活動してきております。左側の写真は 1960 年 1 月 20 日に第 1 回新年家族会が衣浦温泉吉文で開催された時のものです。私は昔テレビ CM で見たことがあるだけで、実際に行ったことはありません。当時の親睦委員さんは何をやったら良いのかわからないということで、大変苦労があったようです。



岡本明弘会長

写真に風船が写っているんですけども、親睦委員さんが考えられまして、正月だから軽やかな感じにしようということで、飾られたようです。おかげでお酒のメートルが上がったという楽しい会であったようです。1979年頃からは新年家族会から年末年忘れ家族会へ定着してきたようであります。

それから、右側の写真は1960年5月6日に第1回春の家族会を碧南RCと刈谷RCさんの合同例会として、三重県の御在所で開催された時のものです。碧南からは65名が参加されまして、貸切バス2台で出掛けたようです。碧南駅前と新川銀座で集合し、途中で刈谷RCさんと合流をして、ロープウェイで山頂まで行って、合同例会・懇親会は湯の山温泉 寿亭にて130名で開催されたようです。当時の親睦委員さんは大変だったと思うんですけども、今年の親睦委員さんもコロナ対応ということで、非常に大変な思いで資料を出していただいております。もし、今年度春の家族会ができるのであれば、1番最初に行った土地である三重県に行きたいということを親睦委員さんをお願いしております。ということで、創立以来碧南RCは親睦を大事にして現在の年忘れ家族会と春の家族会に繋がってきていることをお伝えしまして、本日の会長告知と致します。

ありがとうございました。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第4回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ 碧南市民駅伝大会実行委員会より、第48回碧南市民駅伝大会及び碧南小学生駅伝2021の開催中止についてのご案内が届いております。
- ・ 本日の例会終了後に第1回の次年度役員指名委員会を201号室で行いますので、委員の方はよろしくお願い致します。



鈴木泰博幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 66名 (内出席免除者 15名の内出席者 10名) 出席者 51名	
出席対象者 51/61名	出席率 83.61%
欠席者 15名 (病欠者 0名)	

<ニコボックス>

杉浦 秀延君 母校愛知県立碧南工業高校機械科3年、谷沢佑真・中村伶央ペア、ビーチバレーボール愛知県予選会で優勝。9月29日に開催された全国大会に出

場、6位となりました。これで4年連続の全国大会出場となり、又記録を更新してくれました。嬉しい限りです。

石川 鋼逸君

本日の卓話講師、碧南市役所生田和重様をご紹介させていただきます。

小林 清彦君

家内の誕生日にお花をいただき、ありがとうございます。おかげさまで、会話にも花がさきました。

卓 話

「ふるさと納税から学んだこと」

碧南市総務部経営企画課 課長 生田和重様



生田和重様

只今ご紹介いただきました碧南市総務部経営企画課 課長の生田でございます。本日はこのような場にお招きいただきまし

て、誠にありがとうございます。また、日頃は市政におきまして、ロータリークラブの皆様には絶大なるご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。今年度につきましては、市民病院がコロナの影響を受けまして、大変なご支援をいただいているということで、まずもって、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

私は今し方ご紹介いただきましたように平成3年に市役所に採用されたところから始まっておりまして、今日、皆様に色々とお話をさせていただくんですけれども、どちらかと言うと日頃、人前であまり喋ったことがないということも含めまして、私自身の研修かなというふうに思って、参加をさせていただいております。こういった機会に生田という市の職員の名前を皆様に覚えていただくためにも、少し自己紹介からさせていただけたらと思っております。

私はバブル絶頂期の平成3年4月採用ということで、超売り手市場という昨年のコロナが発生する前のような状態の頃の入庁でありました。大学4年の4月頃には内定が決まっております。民間の企業さんに就職する予定でした。しかし、内定をいただいた企業さんに提出する書類を市役所に取りに行ったところから私の人生は変わりました。当時、市民課に行ったら、職員から座ってたばこを吸いながら住民票を渡されました。それが私の中で沸々と思うところがありまして、市役所を変えてやろうとまでは思いませんでしたが、こんなんでいいのかなという思いから、その後、内定を辞退して8月頃の採用試験に臨むきっかけとなりました。そして、4月には市民課に配属され、色んな方にお世話になりまして、現在30年目になります。趣味はウォーキングで、市内の企業さんが実施されております50kmウォークや100kmウォークに市の職員20名ぐらいを連れて、参加するのが1つの楽しみになっております。もう1つは農家の出身なので、少し畑を借りて農業をしております。最近だと落花生を収穫して食べております。

今日は「ふるさと納税から学んだこと」というタイトルでお話をさせていただきますけれども、ふるさと納税というのは市役所が初めて数字に見える仕事をしたんじゃないかなというふうに思っております。他所の自治体と競い合っているということも数字で見えるように

なったということが初めてなんだろうなと思っていまして、結果が見えるところから私が感じたことを今日はお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

碧南市のふるさと納税は平成 26 年度から始めさせていただいたんですけれども、その前の年まで私は人事の担当をしておりましたが、自ら企画の担当に名乗りを上げました。当時はまだ予算も何もなくて、県内だと岩倉市さんや春日井市さんが始めていたかなという状況でありましたけれども、その後、岩倉市さんを 1 つの目標にやるようにと市長から言われました。まずは予算要求をするところから始めていかななくてはいけないということで、ふるさと納税は専用のポータルサイトから寄付をしていただくという流れなんですけど、どこでやろうかということをもっと最初に考えました。その時にネットショッピングと同じような感覚だろうなと思ひまして、最も寄付金サイトのデザインの見え方が良いものを選んだのがトラストバンクという会社の「ふるさとチョイス」というサイトでした。現在は渋谷の駅近くの超高層ビルで、めちゃくちゃ広いフロアで 100 人ぐらいが働いているんですけれども、まだ遊びのスペースが沢山あるような急成長している企業さんです。当時は社長さんと社員さんの 2 人で全国の自治体を営業で回っているという状況でした。私は 4 月 2 日にこの会社に電話をしまして、御社のサイトで碧南市はふるさと納税をやりたいということを伝えました。更にポータルサイトのバナー広告に全国の 10 自治体だけ載せてもらえるという枠がありまして、まだ予算も取ってなくて契約もできないんですけれども、とにかく目立って寄付金を集めるにはバナーがどうしても欲しいということで、この先、補正予算で必ず予算を取り、バナーの枠を碧南市は買うので、絶対にとっておいて欲しいということを伝えました。当時、そこまで言ってくれる自治体はいなかったらしく、碧南市の生田を憶えてもらったのが付き合いの始まりです。その後、トラストバンクさんは総務省とパイプを築かれて、今の菅総理がふるさと納税のセールをやったらどうかという提案をされた方ですので、菅総理とのパイプが深くて、ふるさと納税が始まって盛り上がってきた頃に総務省から呼ばれまして、トラストバンクの社長さんと私と他にも自治体の職員がいましたけれども、色んなことを意見交換したということが平成 26 年にありました。それが縁かどうかわかりませんが、ふるさと納税サイトの中では結構目立つところに載せてくれたり、色々なところに広告を載せてくれたり、メディアで紹介してくれたりといいところが、碧南市がふるさと納税でちょっと目立ったかなと思います。そして、6 月の補正予算で 2,000 万円を取り、そこから準備を始めまして、9 月から実際にふるさと納税の寄付金を集めるようになった訳なんですけれども、9 月の中旬頃には 2,000 万円が集まってしまひまして、9 月の議会の最終日に追加上程ということで、私が最初に言っていた 1 億円に増額の補正を出していただきました。結果的にこの年は 2 億円まで寄付金が集まりました。

平成 27 年度からは寄付金の控除の上限が上がりまして、今までふるさと納税をやっていなかった方がやるようになったということを含めて、碧南市への寄付金も 6 億 3,000 万円に増えました。しかし、平成 28 年度が 5 億 7,000 万円、平成 29 年度が 5 億 3,000 万円ということで、色んな自治体がどんどん参画してくるようになったことから伸びなくなりました。実は私がふるさと納税の担当で課長補佐をしていたのは最初の立ち上げの 1 年限りで、2 年目、3 年目、4 年目と伸び悩んでいまして、市長からもう 1 回やって欲しいと言われ、平成 30 年

度から再度ふるさと納税の担当になりました。この年は過去最高を更新しまして、7億数千万というところまでいく訳ですけれども、その時はとにかく品数を増やすことと目立つことを中心にやりました。平成29年度は110品目でしたが、平成30年度には193品目に増やしました。そして、令和元年度には400品目までいきました。今年度は500品目ぐらいまでいっております。カタログショッピングの状態になってきておりまして、どちらかと言うと、碧南市を見ていただくよりも欲しい物から検索されるので、その品物にヒットしていかないと寄付金が増えないだろうということが、品数を増やしていくという考えのきっかけでした。令和元年度はついに20億7,000万円というところまで寄付金が集まりました。この20億円というのはふるさと納税の仕組みですと、寄付額に対して3割以内の返礼品を納めなければならないというルールを総務省が決めておりまして、我々が20億円の寄付金をいただくということは約6億円の品物を市内の企業さんから調達しているということで、これが碧南市内の経済の中で回っているということになります。

今年度はというところなんですけれども、7月ぐらいまでは絶好調で、昨年度の20億円の1.8倍くらいのペースでした。年度の前半に寄付金が多かったのはコロナ禍で、自宅で過ごされる時間が増えたからでして、今はそれが緩和されたということと、年収に応じて寄付できる額の上限がありますので、景気にかなり不安が出てきたことによって、9月からはかなり低空飛行になってきつつあります。それでも、現時点で昨年度の1.5倍のペースということで、市長から言われている30億円が見えている段階なんですけれども、この先はそう上手くはいかないかなと思っております。

我々がふるさと納税で目立っていくには、時代の流れを凄く見ていないといけないなと私は感じております。チャンスを逃すとそれを取り戻すのに3倍、4倍、もしかすると10倍くらいの努力をしないと挽回できないということで、タイミングというのが凄く大事ななということを学んだというのが、今日私がお話をさせていただいたことの内容かなと思っております。今後も頑張っていきますので、皆様のご支援をお願いできたらと思っております。拙い話で大変恐縮ですけれども、私の卓話とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

次回例会案内

令和2年10月28日（水）

卓話「私の履歴書」 会員 佐久間克治君、柴田奈生子君